

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第7号

2019.4~2020.3



一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。

目 次

巻頭言	院 長 鎌田 孝篤	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		8
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		15
脳卒中市民公開講座		16
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		17
学術報告		18
学会発表		18
講演活動 等		20
論文発表 等		22
委員会報告		23
医療安全管理委員会		23
医療器材管理委員会		27
感染対策委員会		29
栄養管理委員会		32
褥瘡対策委員会		35
臨床検査適正化委員会		37
薬事審議委員会		39
診療記録管理委員会		40
電子保存システム管理委員会		45
D P C コーディング委員会		47
倫理委員会		48
衛生委員会		50
部署代表者委員会		53
教育研修委員会		55
施設運用委員会		57
広報委員会		59
患者サービス委員会		60
レクリエーション委員会		64
N S T		66
I C T		68
D S T		74
脳ドック ワーキンググループ		76
心臓リハビリテーション ワーキンググループ		78
口腔ケア ワーキンググループ		81
編集委員		83

巻 頭 言

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
院 長 鎌 田 孝 篤

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第 7 号（令和元年度版）が予定より遅れましたが、発刊の運びとなりました。

令和元年度は、9 月 14 日の青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会において東北大学高次脳機能障害学分野鈴木匡子教授によるご講演『高次脳機能障害の症状と成り立ち』がありました。また黎明郷の大池弥三郎初代理事長が発起人となって設立された青森県成人・老人リハビリテーション施設協会の研修会が、10 月 13 日に開催されました。テーマは『嚥下障害』で当センターから事例報告、弘前大学耳鼻咽喉科松原篤教授から特別講演『嚥下障害の診断と治療法：手術的対応も含めて』を頂きました。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターの令和元年度ですが、救急紹介患者を断らず、脳卒中類縁疾患も広く受け入れ、回復期リハ病棟の退院調整を積極的に行なうことなどを継続したことにより、稼働率は一般病棟、回復期病棟ともに年間を通じ前年度を上回る数値を残し病院全体の病棟稼働率は 95.5%となっています。

検査・手術件数では脳ドック受診者数は大幅に増加、頸動脈ステント留置術はコンスタントに行なわれています。他の検査件数、訪問リハビリ件数も患者数が増加した前年度の平成 30 年度の数字を維持しています。また青森県から委託されている高次脳機能障害の支援拠点機関としての関連事業や市民公開講座、黎明郷リハビリテーションケア勉強会開催などの社会活動も継続されております。

各種委員会報告をみると年度末近くなり新型コロナウイルス感染の文字が散見するようになっていきます。現時点（令和 3 年 3 月）の段階で感染状況は始まりの終わりなのか、終わりの始まりなのか定かではありません。先行き不透明な時代だからこそ情報が重要です。年報に記載されている事項、特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現状を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものであります。今後に向けて、十分に吟味し活用されることを願っております。

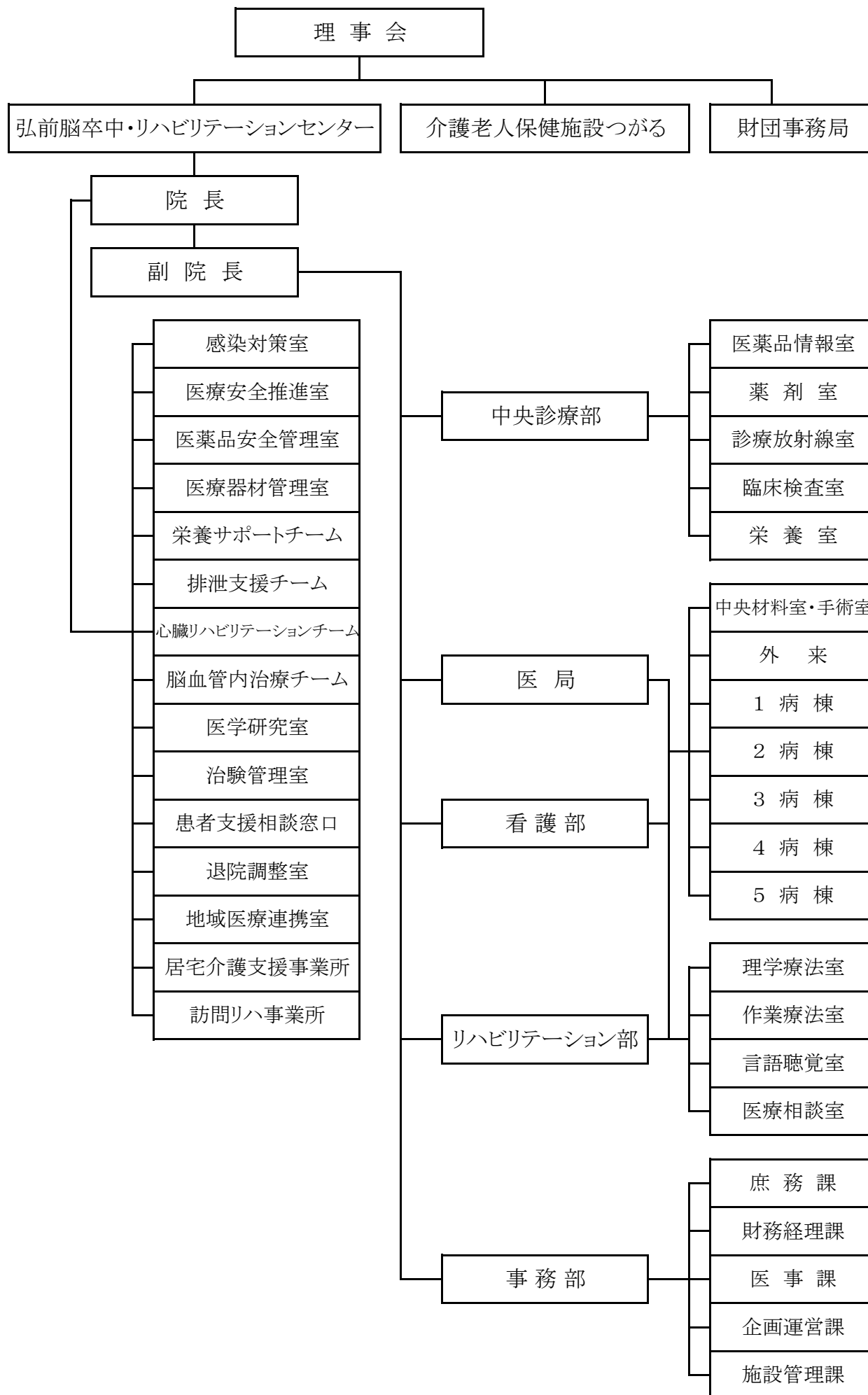
年報を担当した広報委員会の日時典文委員長をはじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4 階 敷地面積 19,872.80 m² 建築延面積 11,414.94 m² 一般病棟 35 床 回復期リハビリテーション病棟 110 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設 （名称変更） （248 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4 階 敷地面積 25,828.95 m² 建築延面積 18,579.55 m² 一般病棟 79 床 回復期リハビリテーション病棟 169 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

沿 革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10 床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設(60 床、昭和 57 年 7 月 248 床)
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103 床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設(248 床) 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所(無床) を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



役員名簿

令和2年3月31日現在

氏 名	所属・職名 等
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷 理事長
奥村 謙 (理事)	済生会熊本病院心臓血管センター 循環器内科 最高技術顧問
富田 泰史 (理事)	弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 教授
高梨 信吾 (理事)	弘前大学保健管理センター 所長・教授
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長
長尾 忠行 (理事)	平川市長
山田 年伸 (理事)	大鰐町長
鹿内 勲 (理事)	(株)青森銀行 常務取締役弘前地区営業本部長
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境生活部長
鎌田 孝篤 (理事)	一般財団法人 黎明郷 院長
小林 正志 (理事)	一般財団法人 黎明郷 事務局長
阿部 誠 (監事)	阿部誠税理士事務所
葛西 俊介 (監事)	(株)青森銀行 執行役員 弘前支店長

評議員名簿

令和2年3月31日現在

氏 名	所属・職名 等
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長
込山 稔	社会福祉法人 藤聖母園 理事
梅村 芳文	梅村医院 院長
畑山 亨	畑山医院 院長
葛西 聡	あすなろ法律事務所 弁護士
奈良岡 勇造	元青森県生活環境部 理事
村田 大六	豊田地区町会連合会 会長
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長
萩井 譲士	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長
内沢 隆充	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長
清野 聡	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長
樋口 三枝子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター・介護老人保健施設つがる 看護部長

職員数

※過去3年分について掲載

職 種	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医 師	17	18	19
薬剤師	8	9	7
診療放射線技師	6	6	7
臨床検査技師	7	8	8
理学療法士	59	58	60
作業療法士	58	56	56
言語聴覚士	10	7	7
医療相談員	9	11	10
医療部助手	1	1	2
管理栄養士	4	4	4
看護師	169	159	151
准看護師	15	19	22
看護助手	43	38	30
歯科衛生士	2	2	2
介護支援専門員	2	2	2
事務員	40	41	39
合 計	450	439	426

各年度4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3年分について掲載

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
延患者数（人）		81,464	81,464	86,677
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		90.0	90.0	95.5
平均在院日数（日）	一般病棟	18	18	18
	回復期病棟	88	88	82
	一般病棟	17.8	17.8	18.3
	回復期病棟	88.4	88.4	82.1
新患受入件数（件）				
a. 救急車		648	648	584
		(30%)	(30%)	(25.7%)
b. 直接来院		1,512	1,512	1,687
		(70%)	(70%)	(74.3%)
※ c. 救急車受入のうち入院（件）		518	518	476
(c/a)		(79.9%)	(79.9%)	(81.5%)
一般病棟指標				
在宅復帰率		82.9%	82.9%	89.5%
医療・看護必要度 重症者割合		30.0%	30.0%	35.9%
回復期リハビリテーション病棟指標				
在宅復帰率		80.2%	80.2%	83.6%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		24.4%	24.4%	—（※）
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		54.9%	54.9%	53.3%
重症患者回復割合（退棟時）		49.8%	49.8%	59.3%
回復期病棟延患者数（人）		56,880	56,880	60,322
実施リハ単位数		358,340	358,340	339,943
一日一人当たりリハ提供単位数		6.30	6.30	5.64
脳卒中地域連携パス適用患者数（平成25年9月～）		0	0	0

（※）平成30年4月～廃止

診療実績 検査・手術件数

※過去3年分について掲載

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
MR I		4,449	4,700	4,522
C T		3,911	4,365	4,217
単純C T撮影				3,721
超音波	頰動脈	1,263	1,373	1,450
	心臓	988	1,116	1,105
	経食道心臓	487	533	512
	その他	36	54	100
	合計	2,774	3,076	3,167
A B I（脈波）		882	866	862
ホルター心電図		918	916	945
血管造影	脳血管造影	62	59	42
	頭頸部血管造影	—	—	—
	大動脈造影	—	—	—
	心臓カテーテル検査	16	10	12
	下肢血管造影	3	2	3
	合計	81	71	57
透視下検査	嚥下造影	67	41	30
	上部消化管造影	—	—	—
	透視のみ	1	4	—
	合計	68	45	30
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	—	—	—
	胃瘻交換	15	13	10
	胃・十二指腸ファイバースコピー	19	4	4
	食道ファイバースコピー	1	0	—
	合計	35	17	14
血栓溶解療法（t-P A）		27	25	21
頰動脈ステント留置術		6	12	12
経皮的脳血管形成術		3	1	1
経皮的脳血栓回収術		1	11	3
ペースメーカー移植・交換術		4	4	3
気管切開術		2	3	2
運動器リハビリテーション				11
心大血管疾患リハビリテーション				25
脳血管疾患リハビリテーション				1385

脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度	4	0	11	14	15	10	13	17	12	10	1	1	108
平成30年度	4	3	6	12	16	14	11	19	18	6	5	4	118
令和元年度	4	2	5	12	13	13	22	15	18	16	18	5	143

※過去3年分について掲載

訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成29年度	183	193	215	199	220	197	222	208	187	189	198	225	2,436
平成30年度	220	226	217	216	217	181	214	207	198	196	199	221	2,512
令和元年度	208	219	198	219	189	192	209	208	194	189	208	214	2,447

※過去3年分について掲載

研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定研修教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31 2017. 1. 1～2020. 3. 31 2020. 4. 1～2021. 3. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31 2019. 4. 1～2024. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31 2015. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2019. 3. 31 2019. 4. 1～2021. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	5
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	6
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	6
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	2
日本脳神経血管内治療学会認定専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	1
合 計	24

令和2年3月31日現在

※合計は延べ人数

治験実績

年度	内 容
令和元年度	DU-176b 第Ⅲ相臨床試験（非弁膜症性心房細動） 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な 80 歳以上の非弁膜症性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験
令和元年度	脳梗塞再発リスク因子を有する血栓性脳梗塞患者を対象とした CS-747S のクロピドグレル硫酸塩との二重盲検比較試験

実習受入状況

※過去3か年分について掲載

平成 29 年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	4	15	13	12	4	1	1	1	51
延人数 (単位：人)	122	905	457	537	197	23	12	36	2289

平成 30 年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	5	22	17	21	6	1	1	1	74
延人数 (単位：人)	171	974	450	472	206	24	12	4	2313

令和元年度	医局	薬剤室	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
				P T	O T	S T	MSW			
延件数 (単位：件)	7	1	18	14	16	3	2	2	2	65
延人数 (単位：人)	365	54	756	385	72	78	46	42	7	1805

財団事業(青森県委託事業)
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関
 令和元年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：令和元年9月14日（土）14：00～16：30

開催場所：アピオあおもり2階イベントホール

参加者：103名

講演

『高次脳機能障害の症状と成り立ち』

講師：東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害
 教授 鈴木 匡子 先生

※拠点機関支援コーディネーターによる医療福祉相談を同時開催

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：令和元年7月16日（火）17：30

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：13名

案件

1. 平成30年度事業報告について
2. 令和元年度事業計画について

3. 相談件数

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	9	32	58
就労支援	1	3	2
診断・治療	6	19	51
支援体制・家族会	2	6	3
その他	0	4	2

財団事業(事務局)
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会
令和元年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会

開催日時：令和元年10月12日(土) 15:00～17:00

開催場所：青森国際ホテル

参加者：病院、老健、特養等職員 84名

1. 事例報告

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

内科部長 佐々木 都子 先生

『当院における嚥下障害への取り組み』

講師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

言語聴覚室長 盛 亨子 先生

2. 特別講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

リハビリテーション科部長 岩田 学 先生

『嚥下障害の診断と治療法：手術的対応も含めて』

講師：弘前大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学講座

教授 松原 篤 先生

財団事業(主催)
脳卒中市民公開講座
令和元年度事業活動報告

「脳卒中市民公開講座2019」

開催日時：令和元年9月30日（日）14：00～16：00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール（ヒロロ4F）

参加者：110名

テーマ『ためになる！「あたらない」ためのお話し』

1. 講演

講演1

『飲み込みの問題はむせだけじゃない』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
言語聴覚室長 盛 亨子 先生

講演2

『首の血管（頸動脈）と脳梗塞の話』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科副部長 齋藤 新 先生

講演3

『当院脳ドックの内容と見つかる病気』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
副院長（脳神経外科部長）内沢 隆充 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナー、脳卒中疑似体験コーナー等の設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

令和元年度事業活動報告

第12回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テーマ：『移乗介助方法を見直そう！～持ち上げない移乗動作介助～』

開催日時：令和元年11月8日（金） 18：00～19：30

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参加者：病院、老健、特養等職員 11名

1. 講義：移乗の基本を学ぶ

「立ち上がりの基本」

「自立へとつなげる介助方法」

「介助者自身を守る介助方法」

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

リハビリスタッフ

2. 演習：移乗動作介助の手技を獲得する

「移乗動作介助のロールプレイ」

- ・グループに分かれて、介助する側だけでなく介助される側を体験

学術報告—全国学会 等

年 月 日		学会・研究会名	発 表 演 題	発 表 者
1	令元年6月12日 ～6月16日	第56回日本リハビリテーション医学学会学術集会（神戸市）	脳卒中関連肺炎に対する多職種による早期離床の効果	藤田 彩香
2	令元年6月12日 ～6月16日	第56回日本リハビリテーション医学学会学術集会（神戸市）	意識障害を伴う橋出血の転帰と急性期リハビリテーション	藤田 彩香
3	令和元年6月21日	第9回豊橋ライブデモンストレーションコース（豊橋市）	心筋梗塞の原因となりえた冠動脈内異物の回収	濱舘 美里
4	令元年7月13日 ～7月14日	第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（大阪市）	脳卒中専門施設における心疾患・一次救命に関する調査	小野 公久
5	令元年9月6日 ～9月8日	第53回日本作業療学会（福岡市）	脳卒中患者に対する促通反復療法の長期的効果	渡部 清寛
6	令和元年9月14日	第1回日本脳神経内科血管治療研究会（大阪市）	Stent fractureによって遅発性ステント内閉塞を来した症候性右内頸動脈狭窄症の1例	齋藤 新
7	令元年9月28日 ～9月29日	第17回日本神経理学療法学会学術大会（横浜市）	運動時の注意の向け方の違いが注意要求量に及ぼす影響に関する脳科学的検討	小田桐 伶
8	令元年9月28日 ～9月29日	第17回日本神経理学療法学会学術大会（横浜市）	ワーキングメモリと二重課題条件下歩行との関連性	田口 惇
9	令元年9月28日 ～9月29日	第17回日本神経理学療法学会学術大会（横浜市）	左後頸部への電気刺激が方向性注意機能に及ぼす影響 —周波数の違いに着目して—	高木 慎吾
10	令元年9月28日 ～9月29日	第1回日本服薬支援研究会（東京都港区）	介護老人保健施設において処方支援PBPMを導入した効果の検討	鳥谷部 翔
11	令元年10月21日 ～10月24日	15th WFITN CONGRESS 2019（イタリア ナポリ）	Usefulness of intravascular ultrasound imaging by which microwire was navigated into the true lumen in the acute ischemic stroke case with internal carotid dissection	齋藤 新
12	令元年11月21日 ～11月22日	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢2019（金沢市）	訪問リハビリテーション利用者の冬期外出に向けた短下肢装具と外靴の検討～息子の卒業式出席を叶えるために～	齋藤 拓也
13	令元年11月21日 ～11月22日	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢2019（金沢市）	当院の回復期セラピストマネジャーの活動報告	齋藤 信一
14	令元年11月21日 ～11月22日	リハビリテーション・ケア合同研究大会金沢2019（金沢市）	当院回復期病棟医療相談員の役割に関する一考察 ～回復期病棟スタッフへのアンケート調査より～	佐藤 芽以

学術報告—地方会

年 月 日		学会・研究会名	発 表 演 題	発 表 者
1	令元年5月11日 ～ 5月12日	第32回青森県作業療法学会 (むつ市)	脳梗塞発症後の重度右片麻痺患者 に対する新人作業療法士としての 介入経験	三浦 雪恵
2	令元年6月1日 ～ 6月2日	日本病院薬剤師会東北ブロッ ク第9回学術大会 (秋田市)	急性期から回復期、老健そして一 般病棟へとシームレスな薬剤業務 の展開	鳥谷部 翔
3	令元年6月1日 ～ 6月2日	第43回青森県理学療法士学会 (弘前市)	心原性塞栓症を発症し重度の右片 麻痺・失語症を呈した症例へのア プローチ ～練習意欲の低下に対し学習行動 理論に着目して～	鳴海 正紀
4	令元年6月1日 ～ 6月2日	第43回青森県理学療法士学会 (弘前市)	脳梗塞により歩行障害を呈した症 例へのウォークエイドの使用経験	宇野 亜衣
5	令和元年6月8日	第12回北東北脳血管内治療カン ファランス (秋田市)	右内頸動脈解離による急性期脳梗 塞に対してIVUS-guided angioplastyを行った一例	齋藤 新
6	令和元年6月29日	第31回青森県滅菌・消毒研究 会 (弘前市)	当院におけるAS活動 ～感染防止対策加算2施設での取り 組み～	花田 和大
7	令和元年7月6日	青森県病院薬剤師会 令和元年度中小病院等委員会 療養病床シンポジウム (青森市)	老健施設から一般病棟へ入院とな る患者への薬剤業務 ～排泄自立支援チームでの尿路感 染症予防の取り組み～	倉内 寿孝
8	令元年9月14日 ～ 9月15日	第37回東北理学療法学会 (福島市)	脳卒中片麻痺患者における後方平 板支柱付き短下肢装具使用者とゲ イトソリューション継手付き短下 肢装具使用者の身体機能の差異に 関する検討	小田桐 伶
9	令元年9月14日 ～ 9月15日	第37回東北理学療法学会 (福島市)	歩行神経筋電気刺激装置ウォーク エイドを用いた歩行練習の介入報 告	佐藤 大地
10	令和元年11月2日	日本糖尿病学会 第57回東北地方会 (仙台市)	糖尿病治療中に脳梗塞を発症した 患者の特徴	西谷 鮎子

年 月 日		学会・研究会名	発 表 演 題	発 表 者
1	令和元年5月19日	高血圧市民公開講座 (日本高血圧協会) (青森市)	減塩の大切さを確認しましょう	佐々木 都子
2	令和元年5月20日	脳疾患における急性期医療を考える会 (弘前市薬剤師会、第一三共) (弘前市)	急性期脳梗塞医療 ～プレホスピタルから再開通治療まで～	齋藤 新
3	令和元年5月26日	脳卒中市民公開講座2019 (弘前市)	当院脳ドックの内容と見つかる病気	内沢 隆充
4	令和元年5月26日	脳卒中市民公開講座2019 (弘前市)	首の血管(頸動脈)と脳梗塞の話	齋藤 新
5	令和元年5月26日	脳卒中市民公開講座2019 (弘前市)	飲み込みの問題はむせだけじゃない!	高橋 友紀子
6	令和元年5月31日	弘前脳卒中救急医療を考える会 2019 (弘前市)	脳卒中救急これだけは	白戸 弘志
7	令和元年6月5日	高齢者AFのトータルケア@四国 (第一三共) (弘前市)	脳卒中および嚥下障害を有する患者への シームレスな薬剤業務の展開	鳥谷部 翔
8	令和元年6月8日	第17回青森県脳卒中フォーラム (田辺三菱製薬) (青森市)	「いつもと違う」は重要な所見	佐藤 眞紀子
9	令和元年6月14日	一般社団法人青森県作業療法士会 地域作業療法実践研修会 (青森市)	自立支援とリハビリテーション ～生活行為向上リハビリテーションについて～	金谷 圭子
10	令和元年6月20日	「Post Strokeを考える」学術講演会in弘前 (大塚製薬) (弘前市)	脳卒中急性期患者に対する肺炎予防のための口腔ケアの効果	小出 宣子
11	令和元年6月27日	イクザレルトWEBカンファレンス (バイエル薬品) (弘前市)	心原性脳塞栓症克服に向けての道のりと今後の課題	目時 典文
12	令和元年7月12日	脳疾患Total Care講演会(第一三共、弘前薬剤師会) (弘前市)	脳卒中の治療戦略 ～二次予防と認知症ケアの検討～	目時 典文
13	令和元年7月14日	一般社団法人青森県作業療法士会 地域作業療法実践研修会 (弘前市)	地域における生活行為向上マネジメントの視点について 地域包括ケアに関する動向、総合事業実践事例集の活用について	金谷 圭子
14	令和元年7月28日	一般社団法人青森県作業療法士会 2019年度現職者研修会 (弘前市)	作業療法における協業・後輩育成	算用子 暁美

年 月 日		学会・研究会名	発 表 演 題	発 表 者
15	令和元年8月2日	Aomori Heart Rhythm Seminar (バイオトロンニックジャパン、バイエル薬品) (弘前市)	令和時代の脳卒中診療	萩井 護士
16	令和元年8月6日	弘前保健所感染症研修会 (弘前保健所、青森県感染対策協議会AICON) (弘前市)	おむつ交換時の注意点について	毛利 暢子
17	令和元年9月24日	高齢者Total Care講演会 (第一三共、弘前薬剤師会) (弘前市)	脳梗塞治療の最前線 ～抗凝固治療法の位置づけを考える～	齋藤 新
18	令和元年10月11日	西北五脳卒中連携懇話会 (ブリストル・マイヤーズスクイブ、ファイザー) (五所川原市)	脳卒中・循環器病対策基本法で、何が 変わるのか	齋藤 新
19	令和元年10月16日	2019年度「脳卒中患者のリハビリ テーション看護のポイント」研修 会 (青森県看護協会) (青森市)	脳卒中患者のリハビリテーション看護 のポイント	齋藤 輝之
20	令和元年10月30日	ストップ！NO卒中プロジェクト支 部講演会in弘前2019 (日本脳卒中協会、ファイザー) (弘前市)	津軽地域から垣間見る青森県の脳卒中 治療の現状と課題	齋藤 新
21	令和元年11月23日	一般社団法人青森県言語聴覚士会 弘前支部嚥下部会研修会 (弘前市)	嚥下調整食について	盛 亨子
22	令和元年11月25日	「介護職×初級講座」令和元年度 福祉施設就労支援・体験講習会 (青森県社会福祉協議会) (青森市)	食事介助のポイント	盛 亨子
23	令和2年2月15日	第18回青森県脳卒中フォーラム (田辺三菱製薬) (青森市)	塞栓源不明脳塞栓症に対する植込み型 心電図記録計の初期使用成績	齋藤 新
24	令和2年2月18日	Onco-Cardiology講演会 (第一三共、弘前市医師会) (弘前市)	がん患者の脳卒中診療について	白戸 弘志
25	令和2年2月26日	Otsuka Tohoku Epilepsy Seminar (大塚製薬) (弘前市)	脳卒中後てんかんと抗てんかん薬注射 剤について	鳥谷部 翔

学術報告—論文発表 等

年 月		雑 誌 名	発 表 演 題	発 表 者
1	令和元年6月	脳神経内科 Vol.90 (6) (P.670-675)	【塞栓源不明脳塞栓症】 塞栓源不明脳塞栓症の診断基準	奥村 謙 目時 典文
2	令和元年7月	Circulation Journal Vol.83 (7) (P.1538-1545)	Baseline demographics and clinical characteristics in the all Nippon Af in the elderly (ANAFIE) registry	是恒 之宏 奥村 謙 他
3	令和元年7月	リハビリナース Vol.12 (4) (P.396-400)	悩んだ!困った!リハビリ患者さんのゴール設定&退院支援 (CASE11)脳卒中患者と家族へのインスリン指導から、患者の自己効力感を高められた事例	齋藤 輝之
4	令和元年8月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Vol.28 (8) (P.2302-2310)	Collagen-induced platelet aggregates, diabetes, and aspirin therapy predict clinical outcomes in acute ischemic stroke	播磨 加朋 萩井 譲士 目時 典文 保嶋 実 長内 智宏 他
5	令和2年1月	循環器疾患最新の治療 2020-2021 (P.343-346)	XIII.脳血管障害 1.脳梗塞	萩井 譲士 富田 泰史
6	令和2年1月	NeuroReport Vol.31 (2) (P.189-196)	Effects of voluntary and forced exercises on motor function recovery in intracerebral hemorrhage rats	佐藤 ちひろ 赤平 一樹 他
7	令和2年2月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Vol.29 (2) (DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2019.104534)	D-dimer and C-reactive protein as potential biomarkers for diagnosis of Trousseau's syndrome in patients with cerebral embolism	對馬 廸子 目時 典文 萩井 譲士 齋藤 新 白戸 弘志 保嶋 実 加藤 朋 工藤 奈津美 富田 泰史 他
8	令和2年3月	青森県理学療法士会誌 理学療法研究 Vol.37 (P.8-13)	左後頭部への電気刺激が方向性注意機能に与える影響—周波数の違いに着目して—	高木 慎吾 山本 賢雅 佐々木 都子 岩田 学 他
9	令和2年3月	青森県理学療法士会誌 理学療法研究 Vol.37 (P.14-19)	運動時の注意の向け方の違いが前頭前野血流動態に与える影響	小田桐 伶 他

委員会報告

医療安全管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

医療安全管理委員会

委員長 鎌田 孝篤 (院長)

副委員長 樋口 三枝子 (看護部長)

藤田 尚子 (医薬品情報室副室長) ※

メンバー 萩井 譲士 (副院長 兼 医療安全推進室室長) ※

佐々木 都子 (内科部長 兼 リハビリテーション部長)

算用子 暁美 (リハビリテーション部技師長)

工藤 雅令 (事務部長)

立林 修 (庶務課長)

山田 まり子 (副看護部長 兼 医療安全推進室副室長) ◆

※医療安全推進室 (兼務)

◆専従医療安全管理者

3. 委員会等開催記録

医療安全管理委員会

回	開催日	内 容
1	平成31年4月17日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成30年度インシデント・アクシデント報告、2019年度部門別 業務改善計画書について 医薬品副作用などの報告
2	令和元年5月22日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 4月分インシデント・アクシデント報告 令和元年度 第1回医療安全研修会について 医薬品副作用などの報告
3	令和元年6月19日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 5月分インシデント・アクシデント報告 ポート移植術に関する説明書・同意書 CXガイドワイヤーについて 医薬品副作用などの報告

4	令和元年 7 月 17 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 第 1 回医療安全・医薬品安全管理研修会 感想・まとめ 6 月分インシデント・アクシデント報告 医薬品副作用などの報告
5	令和元年 8 月 21 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 7 月分インシデント・アクシデント報告 医薬品副作用などの報告
6	令和元年 9 月 18 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 8 月分インシデント・アクシデント報告 医療安全標語 医薬品副作用などの報告
7	令和元年 10 月 16 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 9 月分・上半期インシデント・アクシデント報告 医療安全管理マニュアルについて 令和元年度 第 2 回医療安全研修会について 医薬品副作用などの報告
8	令和元年 11 月 20 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 10 月分インシデント・アクシデント報告 医療安全対策地域連携訪問について 医薬品副作用などの報告
9	令和元年 12 月 18 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 11 月分インシデント・アクシデント報告 第 2 回医療安全研修会まとめ 安全な医療を提供するための 10 の要点について 医薬品副作用などの報告
10	令和 2 年 1 月 22 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 12 月分インシデント・アクシデント報告 医療安全対策地域連携相互点検について 安全確保のための行動制限説明・同意書について MRI 検査運用規定について 経食道エコー同意書について 医薬品副作用などの報告
11	令和 2 年 2 月 19 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 1 月分インシデント・アクシデント報告 医療安全対策地域連携相互点検講評 医薬品副作用などの報告
12	令和 2 年 3 月 18 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 2 月分インシデント・アクシデント報告 令和元年度 医療安全部門別業務改善計画評価について 令和元年度 インシデント・アクシデント報告 医療安全対策地域連携相互点検講評 医薬品副作用などの報告

医療安全研修会

	開催日	内 容
第 1 回	令和元年 6 月 24 日～28 日	平成 30 年度 インシデント・アクシデントデータ報告事例から要因・対策を考えてみよう
第 2 回	令和元年 11 月 18 日～22 日	医療放射線の理解と安全管理 医療ガスについて

院内巡視

開催日	場所	内容
平成 31 年 4 月 18 日	1 病棟	与薬・注射ミキシングの手順 患者誤認 環境
令和元年 5 月 23 日	2 病棟	与薬・注射ミキシングの手順 患者誤認 環境
令和元年 6 月 19 日	3 病棟	与薬の手順 患者誤認 作業環境の整理・整頓
令和元年 7 月 18 日	4 病棟	与薬の手順 患者誤認 作業環境の整理・整頓
令和元年 8 月 22 日	5 病棟	与薬の手順 患者誤認 作業環境の整理・整頓
令和元年 9 月 19 日	外来・歯科	作業環境の整理・整備 患者誤認
令和元年 10 月 17 日	臨床検査室	作業環境の整備 マニュアルの整備 患者誤認
令和元年 11 月 21 日	診療放射線室	機器の安全確認 作業環境の整備 マニュアルの整備
令和元年 12 月 19 日	栄養室・厨房	安全感染に配慮した整理・整頓・清潔 患者誤認
令和 2 年 1 月 16 日	リハビリ室	患者の動線確保と安全性の配慮 心リハ急変対応
令和 2 年 2 月 20 日	薬剤室	効率的な作業環境と整理・整備
令和 2 年 3 月 19 日	事務室・SPD	整理・整頓 患者誤認防止

4. 活動要約

- ・インシデント・アクシデント事例の分析・再発防止の検討
- ・医療安全管理に関する全般事項の調査・報告・審議
- ・医療事故防止のための提言
- ・医薬品副作用の報告
- ・医療安全研修会（年 2 回開催）

第 1 回 医療安全・医薬品安全管理研修会 参加率：100%

「平成 30 年度インシデント・アクシデントデータ報告」「事例から要因・対策を考えよう」

データ報告することで院内における発生状況を把握することができる。実際の発生事例から多職種間で共有・ディスカッションすることで根本的な要因を分析し対策を検討できた。

第 2 回 医療安全研修会 参加率：93.3%

「医療放射線の理解と安全管理」「医療ガスについて」

2019 年医療法施行規則改正に伴い、医療放射線に係る安全管理体制、医療被ばくの線量管理・線量記録が規定された。安全な医療を提供するためには、直接的な業務に従事している職種や部署だけではなく、医療現場で働く全てのスタッフが安全に関心を持ち実践していくことが必要である。

- ・インシデント・アクシデントレポートの収集

インシデント・アクシデント事例を分析し、結果を現場へフィードバックする。

- ・院内ラウンド

定期的な院内ラウンドにより安全な作業環境、ルール・マニュアル遵守状況の把握をする。

- ・医療安全対策地域連携相互点検

医療安全対策の現状について連携する病院間で意見交換及び評価することで、医療安全対策の標準化・質向上を図る。

令和元年度まとめ

今年度は昨年度と比較しインシデント・アクシデント総件数は増加した。入院延患者数の増加と患者層の高齢化に伴い認知力の低下により危険と認識できないことも要因のひとつにあると考える。患者誤認は減少も 0 件には至らなかった。患者誤認防止は照合確認が必須である。

今後も患者様の安全を守るため部署リスクマネージャーと連携しながらマニュアル・ルールを遵守するよう周知させ、5 S 活動・KY T を推進しスタッフの教育・指導に努めていく。

医療器材管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける診療材料及び診療に必要な医療機器（以下「医療材料等」という。）の安全採用、死蔵化の防止、その他使用の効率化及び医療材料等の試用に関する事項を審議し、病院運営の健全化を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	医 局	内沢 隆充	（副院長）
メンバー	医 局	鎌田 孝篤	（院長・医療機器安全管理者）
		清野 聡	（副院長 兼 感染対策室長）
		看護部	中田 智子（医療器材管理室副室長代行）
			山田 まり子（医療安全管理者）
			毛利 暢子（院内感染管理者）
	事務部	今 基	（企画運営課長）
		菊池 真	（契約購入係主任）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 4 月 26 日	初回のため委員顔合わせ 委員会概要（要綱）、進め方について 委員会題材対象となる選定について
2	平成 30 年 5 月 31 日	委員会概要（要綱）、各申請様式、フローについて 医療器材登録開始時期について 医療材料変更案内について
3	平成 30 年 6 月 22 日	医療機器の運用について報告 医療器材申請登録を開始について 医療器材管理室の体制について
4	平成 30 年 7 月 20 日	医療機器破棄について審議 委員会要綱について申請様式確認 医療器材申請について審議
5	平成 30 年 8 月 30 日	7 月分の医療器材申請について報告 委員会要綱について申請様式確認 医療器材申請について審議 未使用医療機器について確認
6	平成 30 年 9 月 27 日	8 月分の医療器材申請について報告 未使用医療機器について報告 医療器材申請について審議

7	平成 30 年 10 月 25 日	9 月分の医療器材申請について報告 新規医療器材操作説明実施について報告 医療器材申請について審議 副室長変更について
8	平成 30 年 11 月 30 日	10 月分の医療器材申請について報告 超音波エコー更新についてメーカー別説明会の案内 医療器材申請について審議 配置換えに伴い委員変更について
9	平成 30 年 12 月 27 日	11 月分の医療器材申請について報告 超音波エコー説明会について報告 医療器材申請について審議
10	平成 31 年 1 月 24 日	12 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 医療器材申請について審議
11	平成 31 年 2 月 28 日	1 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 医療器材申請について報告 医療機器破棄について審議
12	平成 31 年 3 月 28 日	2 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 自主回収品について報告 定期点検機器について報告

4. 活動要約

- ・今年度より委員会活動開始のため、委員会概要（要綱）、進め方、フローチャート、各申請様式を作成し運用開始。
- ・医療器材等新規購入の採否に関して審議。
- ・既採用医療材料等の削除に関して調査・報告・審議。
- ・医療器材等の試用に関して報告・審議。
- ・医療器材等の適正な使用及び安全管理に関して調査・報告・審議。
- ・医療器材等の更新に関して調査・報告・審議。

感染対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	鎌田 孝篤 (院長)	
メンバー	清野 聡 (副院長)	萩井 譲士 (副院長)
	樋口 三枝子 (看護部長)	山田 まり子 (副看護部長)
	算用子 暁美 (リハビリテーション部技師長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	鳥谷部 翔 (薬剤師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)
	工藤 雅令 (事務部長)	花田 和大 (薬剤師)
	毛利 暢子 (感染対策室副室長代行) ※	

※院内感染管理者

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月17日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tラウンド状況の報告
2	令和元年5月15日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tラウンド状況の報告
3	令和元年6月19日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tラウンド状況の報告
4	令和元年7月17日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tラウンド状況の報告
5	令和元年8月21日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告

6	令和元年 9 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告
7	令和元年 10 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告 令和元年度インフルエンザワクチン接種開始
8	令和元年 11 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告
9	令和元年 12 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告
10	令和 2 年 1 月 22 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告
11	令和 2 年 2 月 19 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告 弘前大学医学部附属病院感染制御センターによる院内巡視結果の報告
12	令和 2 年 3 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況などの報告 I C Tよりラウンド状況の報告 弘前大学医学部附属病院感染制御センターによる院内巡視指摘事項の改善状況について
臨時 1	令和 2 年 3 月 19 日	新型コロナウイルス感染疑い職員について 渡航時の対応や就業制限などについて検討

院内感染防止対策研修会

回	開催日	内 容
1	令和元年 7 月 22 ～ 26 日	標準予防策
2	令和元年 9 月 24 ～ 30 日	感染経路別対策

4. 活動要約

- ・感染情報レポートの評価・検討

院内感染報告患者と報告細菌数を可視化。

細菌報告後は早期に介入を行い結果も含め報告し、注意点などをフィードバックしている。

委員会で検討・注意喚起を行う事で感染防止に繋がっている。

- ・薬剤室より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告

抗菌薬使用状況などから、病棟毎の特殊性を把握し感染症に関する治療や抗菌薬使用を可視化する事で、感染状況や治療に繋げる事が出来ている。

今後は、抗菌薬使用状況から適正使用であるかなども介入する指標作成を行う。

- ・ICTよりラウンド状況報告

院内環境巡視を通し、院内の感染対策実施状況の把握が出来ている。

病院全体で改善が必要な部分について問題提起し改善が図られた。次年度も継続。

- ・新興感染症に関する感染対策

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症のパンデミックに伴い、渡航に関する対応など財団としての対応策について検討・協議し院内へ提示した。医療提供場面において適切な対応ができるように指導していく。

- ・院内感染防止対策研修会（年2回）

流行を踏まえて必要な研修を実施。参加者の参加型実践研修を行う事で現場に活用できている。

今後も現場の声を踏まえた研修を行っていく。

栄養管理委員会

1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	佐々木 都子（内科部長 兼 リハビリテーション部長）		
委 員	鳥谷部 翔	（薬剤師長）	阿保 文子 （臨床検査技師長）
	横濱 岳	（看護主任）	今井 真子 （看護師）
	高阪 理恵	（看護師）	福士 真美 （看護師）
	工藤 汐里	（看護師）	佐藤 真紀子（看護師）
	成田 理紗	（言語聴覚士）	佐々木 哲裕（医事係係長）
	角田 七海	（医事係）	鳴海 悦子 （管理栄養士長）
	藤田 佳子	（主任管理栄養士）	船水 亜巳 （管理栄養士）
	大川 みこと	（管理栄養士）	
	三橋 義宗	（管理栄養士・日清医療食品）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月3日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 新年度の栄養管理委員会・NST委員構成について 牛乳試飲
2	令和元年5月8日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 春の食事会について
3	令和元年6月5日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 春の食事会総評

4	令和元年 7 月 3 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食について（七夕・土用の丑） 感染症の注意喚起（手洗い、うがい）
5	令和元年 8 月 7 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食について（お盆） 東北女子短期大学実習について 納豆提供について
6	令和元年 9 月 4 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 秋の食事会について 行事食について（十五夜、敬老の日、秋分の日） 備蓄粥の提供について
7	令和元年 10 月 2 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 秋の食事会総評 院内 N S T 勉強会案内
8	令和元年 11 月 6 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 青森県 N S T 研究会案内 栄養管理計画書について 感染症の注意喚起（手洗い、うがい）
9	令和元年 12 月 4 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 クリスマス食事会について 行事食について（冬至、大晦日、元旦） メディカルスタッフ勉強会案内

10	令和2年 1 月 8 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 クリスマス食事会総評 行事食について（節分） 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 届け出に伴う業務変更について パワー粥について
11	令和2年 2 月 5 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 行事食（バレンタイン・ひな祭り） パワー粥導入について NST 勉強会案内
12	令和2年 3 月 4 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST 報告 アンケート調査結果報告 栄養管理計画書運用について確認 次年度の食事会・栄養教室日程 次年度の栄養管理委員会・NST の委員構成について

4. 活動要約

- ・食事会や行事食は例年通り実施。
- ・集団栄養指導、個人栄養指導件数は前年比と同様。
- ・1月からNST活動は休止。
- ・食事アンケートでは、9月頃から満足・やや満足度が上昇。
- ・1月から食欲低下、摂取量不足の患者様対象にパワー粥を導入。
補助食品の入れ替えも行い、栄養状態の改善を図った。
- ・新型コロナウイルス感染症流行の為、NST 勉強会は中止となった。

褥瘡対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	岩田 学	(副院長代行 兼 医局長)
副委員長	桑村 美佳	(看護主任)
メンバー	樋口 三枝子	(看護部長)
	石田 瑞穂	(薬剤師)
	藤田 佳子	(主任管理栄養士)
	大川 みこと	(管理栄養士)
	工藤 育子	(リハ主任／理学療法士)
	渡部 清寛	(リハ主任／作業療法士)
	菊池 真	(契約購入係主任)
	今 基	(企画運営課長)
	白川 笑美子	(看護師)
	須藤 恵美子	(看護師)
	川村 紘子	(看護師)
	千葉 美由紀	(看護師)
	梶浦 枝里奈	(看護師)
	村井 遥子	(看護師)
	荒谷 真貴	(看護師)

3. 委員会開催のまとめ

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 10 日	4 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 3 月分のリスク因子の評価について報告 褥瘡に関する勉強会実施予定について報告
2	令和元年 5 月 15 日	5 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 4 月分のリスク因子の評価について報告 青森県女性薬剤師会春期研修会の案内について報告 褥瘡に関する勉強会はメーカーへ依頼し日程を検討
3	令和元年 6 月 5 日	6 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 5 月分のリスク因子の評価について報告
4	令和元年 7 月 10 日	7 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 6 月分のリスク因子の評価について報告 陰圧療法の製品紹介、製品説明を実施
5	令和元年 8 月 7 日	8 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 7 月分のリスク因子の評価について報告

6	令和元年 9 月 11 日	9 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 8 月分のリスク因子の評価について報告 STAR分類システムの冊子について報告 メーカーによる褥瘡に関するスキンテア等の勉強会を実施
7	令和元年 10 月 9 日	10 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 9 月分のリスク因子の評価について報告 消耗品のサンプル依頼について報告 メーカーによる褥瘡に関するガイドラインに基づいた治療等の勉強会を実施
8	令和元年 11 月 13 日	11 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 10 月分のリスク因子の評価について報告 エアマット製品紹介について報告
9	令和元年 12 月 11 日	12 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 11 月分のリスク因子の評価について報告 メーカーによる褥瘡に関する体圧分散等の勉強会を実施
10	令和元年 1 月 15 日	1 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 12 月分のリスク因子の評価について報告
11	令和元年 2 月 12 日	2 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 1 月分のリスク因子の評価について報告 来年度の褥瘡委員会開催日について報告 メディカルスタッフ勉強会について報告
12	令和元年 3 月 11 日	3 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 2 月分のリスク因子の評価について報告 メディカルスタッフ勉強会の日程、講師について報告

4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
- ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
 - 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
 - 2) 褥瘡に関する学会や研修会への参加を促進する。
 - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
 - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

臨床検査適正化委員会

1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	萩井 譲士	(副院長)		
メンバー	鎌田 孝篤	(院長)	清野 聡	(副院長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	山田 まり子	(副看護部長)	毛利 暢子	(感染対策室副室長代行)
	齋藤 理恵	(医事課長)	伊藤 佳織	(医師事務作業補助係長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 17 日	精度管理実施報告 生化学自動分析装置の部品交換 血液凝固 ACLTOP サーベイ実施 試薬の検討
2	令和元年 5 月 22 日	血液ガス分析装置部品交換及びソフトウェア更新 基準値検討 血液型判定機器定期点検実施
3	令和元年 6 月 19 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 生化学自動分析装置定期点検実施 試薬の検討 全自動免疫測定装置バージョンアップ 実施 基準値の検討
4	令和元年 7 月 17 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 試薬の検討
5	令和元年 8 月 22 日	試薬の検討及び変更 声楽地藏分析装置の部品交換 基準値について
6	令和元年 9 月 18 日	精度管理実施報告 全自動尿中有形成分分析装置の機械調整実施 検査機器の検討
7	令和元年 10 月 16 日	保険適応外の検査項目のオーダー削除 血液ガス分析装置のプリント納入 試薬の変更 血液型判定機器定期点検実施

8	令和元年 11 月 20 日	精度管理実施報告 検査機器の不具合について
9	令和元年 12 月 18 日	精度管理実施報告 血糖測定器定期点検実施 検査機器の不具合について 生化学自動分析装置定期点検実施
10	令和 2 年 1 月 31 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 新規検査項目追加 凝固検査機器の不具合 多項目自動血球分析装置定期点検実施
11	令和 2 年 2 月 19 日	検査システムの不具合について
12	令和 2 年 3 月 18 日	精度管理実施報告 精度管理結果報告 検査システムの不具合について 凝固測定機器決定 BNP 測定機器変更 ALP の測定方法変更について 血糖測定器定期点検実施

3. 活動要約

- ・ 検査データの精度の向上に努める
- ・ 最新の検査項目の提供
- ・ 検査機器の保守、新機種の検討
- ・ 研究活動
- ・ 治験への参加協力

薬事審議委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長 清野 聡 (副院長 兼 医薬品安全管理室長 兼 感染対策室長)

委員 内沢 隆充 (副院長)

馬場 佳子 (内科部長)

目時 典文 (内科部長)

藤田 尚子 (医薬品情報室副室長)

鳥谷部 翔 (薬剤師長)【事務局】

工藤 雅令 (事務部長)

齋藤 理恵 (医事課長)

今 基 (企画運営課長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 8 日	平成 31 年度規定、委員変更の確認 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 レパーサ AD、モーター停止の調査依頼 カリウム製剤の流通について
2	令和元年 5 月 13 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
3	令和元年 6 月 10 日	患者限定採用⇒本採用への検討 後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 製薬メーカーからの医薬品の出荷停止について
4	令和元年 7 月 8 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 カリウム製剤の流通について

5	令和元年 8 月 19 日	新規医薬品の採用、後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 ストロメクトール錠購入 抗菌薬の出荷調整 医薬品販売名変更について
6	令和元年 9 月 9 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 抗菌薬の安定供給検討 増税による薬価改定について
7	令和元年 10 月 21 日	後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 販売中止の抗菌薬について
8	令和元年 11 月 11 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
9	令和元年 12 月 9 日	患者限定採用⇒本採用への検討 後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 出荷調整医薬品について
10	令和 2 年 1 月 20 日	患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 出荷調整医薬品について
11	令和 2 年 2 月 18 日	患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 出荷調整医薬品について コロナウイルスによる医薬品流通等の影響について
12	令和 2 年 3 月 11 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 出荷調整医薬品について 製造販売中止医薬品(心不全治療薬)について

4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR 訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。

- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

診療記録管理委員会

1. 活動目的

診療記録等の診療情報資料を適正かつ効率的に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	鎌田 孝篤	(院長)
委員	鳥谷部 翔	(薬剤師長)
	蒔苗 敦子	(看護師長)
	工藤 くみ	(看護主任)
	小野 公久	(リハ主任)
	小比類巻 顕子	(リハ主任)
	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)
	鳴海 悦子	(管理栄養士長)
	今 基	(企画運営課長)
	齋藤 理恵	(医事課長)
	伊藤 佳織	(医師事務作業補助係長)
	葛西 志保	(医師事務作業補助係)
	奈良 麻里	(医師事務作業補助係)
	小田桐 珠美	(医師事務作業補助係)
	佐々木 哲裕	(医事係長)【診療記録管理者】

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 5 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 HDS-R印刷時の表示について 診療記録等の廃棄について 外来管理加算算定時のカルテ記載について 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について
2	令和元年 5 月 10 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 HDS-R印刷時の表示について 外来管理加算算定時のカルテ記載について 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について HIV検査同意書について 病理検査・細胞診検査オーダー入力について

3	令和元年 6 月 7 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 HDS-R印刷時の表示について 外来管理加算算定時のカルテ記載について 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について HIV検査同意書について 病理検査・細胞診検査オーダー入力について 訪問看護指示書テンプレートの修正について
4	令和元年 7 月 5 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について HIV検査同意書について 認知症高齢者の日常生活自立度の入院時評価について リハビリテーション総合実施計画書の説明について
5	令和元年 8 月 2 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について 認知症高齢者の日常生活自立度の入院時評価について リハビリテーション総合実施計画書の説明について 治験・臨床研究の参加有無のカルテ標記について
6	令和元年 9 月 6 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について 治験・臨床研究の参加有無のカルテ標記について スキャン文書の取扱いについて
7	令和元年 10 月 4 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について 治験・臨床研究の参加有無のカルテ標記について スキャン文書の取扱いについて
8	令和元年 11 月 1 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について スキャン文書の取扱いについて 抑制同意書の改訂について
9	令和元年 12 月 6 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時リハビリテーション指導のカルテ記載について スキャン文書の取扱いについて カルテ廃棄時の委託業者の証明について 他院への体内金属有無の確認運用について

10	令和2年 1 月 10 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 診療記録等の廃棄について 退院時サマリの標準化について
11	令和2年 2 月 7 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 診療記録等の廃棄について 退院時サマリの標準化について 令和2年度診療報酬改定に伴う対応について 経食道エコー検査の説明書・同意書について
12	令和2年 3 月 6 日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 退院時サマリの標準化について 令和2年度診療報酬改定に伴う対応について

4. 活動要約

- ・不備があると考えられる診療記録について、提案し改善に努めた。

電子保存システム管理委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	内沢 隆充（副院長）	
メンバー	中田 智子（副看護部長）	長谷川国俊（理学療法室副アドバイザー）
	齋藤 信一（作業療法室副室長）	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	阿保 文子（臨床検査技師長）
	川村 隆行（診療放射線技師長）	立林 修（庶務課長・運用責任者）
	齋藤 堅太（医療情報係・システム管理者）	今田 信之（医療情報係・システム管理者）
オブザーバー	シグマソリューションズ	

3. 委員会開催記録

電子保存システム管理委員会

毎月第1水曜日 14:30～(会議室1)

診療録電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 11名

オブザーバー 0～2名

主な活動内容

回	開催日	内 容
1	平成31年4月3日	電子カルテシステム利用期間の延長(5年→6年) 読影環境(画像参照専用端末)の整備について
2	令和元年5月8日	新元号対応について 統計ソフト(看護部リハビリ部)の更新について ナースコールPCの動作不良継続について ノートパソコン(電子カルテ)のバッテリー不具合対応について
3	令和元年6月5日	JOIN連携について(弘前大学 脳神経外科心臓血管外科) 転科した際の患者移動歴表示が正しくない件について
4	令和元年7月3日	JOIN運用体制検討協議会について(弘前市企画課より) JOIN利用できる検査画像の設定について
5	令和元年8月7日	医療事務システム(レセコン)の入替えについて レンタルサーバー業者の選定について 全館ネットワーク機器の入替えについて(検討)
6	令和元年9月4日	事務系LAN端末一斉入れ替え予定と運用上の問題点について 全館ネットワーク機器の入替えについて(検討) 画像サーバー(シンクライアント用動画用)使用量確認について 旧パソコン、旧サーバーの廃棄について
7	令和元年10月2日	漏電検査の対応について

8	令和元年 11 月 6 日	薬剤システム 機能カスタマイズについて 超音波機器入れ替えに伴う患者情報連携について（超音波 2）
9	令和元年 12 月 4 日	RIS サーバー端末（DVGW01）漏電検査時のシャットダウンについて
10	令和 2 年 1 月 8 日	委員の変更について 部門連携障害（電子カルテ放射線システム間）について
11	令和 2 年 2 月 5 日	電子カルテ 記録オーダが正しく表示されない件について 麻薬オーダが保存できない件について
12	令和 2 年 3 月 4 日	線量管理システムの導入について

4. 活動要約

電子カルテを始め各システム等の問題点の改善、運用案についての検討。

DPCコーディング委員会

1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長		鎌田 孝篤	（院長）
メンバー	医局	萩井 譲士	（副院長）
		清野 聡	（副院長）
	中央診療部	鳥谷部 翔	（薬剤師長）
	看護部	樋口 三枝子	（看護部長）
		小田桐 千代	（看護師長）
		工藤 正弘	（看護師長）
	事務部	齋藤 理恵	（医事課長）
		佐々木 哲裕	（医事係主任・診療記録管理者）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和元年 5 月 27 日	認知症高齢者の日常生活自立度判定について検討
2	令和元年 10 月 29 日	脳梗塞の分類について（ノバスタン使用例）
3	令和元年 11 月 25 日	てんかんのコーディングについて
4	令和2年 2 月 25 日	脳動静脈奇形による脳出血のコーディングについて 新型コロナウイルス感染症の ICD10 について

4. 活動要約

サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

倫理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長 内沢 隆充 (副院長)
メンバー 清野 聡 (副院長)
岩田 学 (医局長)
樋口 三枝子 (看護部長)

【外部の学識経験者】

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域
教授 長内 智宏
青森県立保健大学健康科学部理学療法学科
准教授 勘林 秀行
社会保険労務士 石塚 紀子
【事務局】
立林 修 (庶務課長)

3. 活動記録

A 審議あり (変更申請を除く新規申請のみ表示)

承認日	研究名	申請者
令和元年 6 月 10 日	軽症脳卒中患者の減塩行動に関する検討 ～行動変容ステージの変化と影響する要因 の分析～	青森県立保健大学大学院対人 マネジメント領域 博士前期課程 2 年 福士 裕紀
令和元年 7 月 11 日	脳卒中片麻痺者の荷物携帯条件の違いが歩 行時における体幹動揺やストレスに与える 影響	弘前大学准教授 高見 彰淑
令和元年 7 月 16 日	脳卒中片麻痺患者に対する左後頸部への経 皮的電気神経刺激が方向性注意機能へ与え る影響—刺激周波数の違いに着目して—	理学療法士 小田桐 伶
令和元年 12 月 12 日	DASC-8 を使用した血糖管理目標達成率と要 因の検討	薬剤師長 鳥谷部 翔
令和2年 2 月 4 日	日本国内の脳神経血管内治療に関する登録 研究 4	内科副部長 齋藤 新

令和2年2月21日	Japanese Registry Of Neuroendovascular Therapy 4 (JR-NET4)	弘前大学大学院保健学研究 科看護学領域 教授 長内 智宏
令和2年2月21日	血小板凝集能と脳卒中の関係性と抗血小板 薬使用による再発率の変化	弘前大学大学院保健学研究 科看護学領域 教授 長内 智宏
令和2年2月21日	脳卒中患者の血小板凝集能と麻痺の程度と の関連性	理学療法士 田口 惇

B 審議を必要としないもの（委員長決裁）

承認日	研究名	申請者
令和元年6月6日	排泄自立支援の介入データベース作成	感染対策室 毛利 暢子
令和元年9月12日	IPVを導入した患者への看護師の関わり	2病棟 看護主任代行 三上 夏美
令和元年9月17日	脳卒中鑑別における救急搬入患者の訴える 症状と初療治バイタルサインの有用性	内科医長 白戸 弘志
令和元年11月1日	AICON 薬剤師部会 カルバペネム系 用量適 正化プロジェクト	主任薬剤師 倉内 寿孝
令和2年2月13日	当院における装具評価の取り組みの報告	理学療法士 山本賢雅
令和2年2月13日	脳卒中患者における発症時と発症2週時の筋 肉量の比較～体組成計を用いた検討～	理学療法士 小田桐 伶

4. 活動要約

- ・倫理審査は、紙上にて実施し、各委員が審査の上、必要に応じて申請者へ質問、指摘を行った。
また、不備な点については、修正、追加の上再申請を求めた上で再審査した。
- ・令和元年度 新規研究申請件数
審議あり：8件、審議なし（委員長決裁）：6件
※申請された研究はすべて承認

衛生委員会

1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	鎌田 孝篤	院長
	高橋 広希	内科部長（産業医）
	清野 聡	医局長（衛生管理者）
	工藤 雅令	事務部長
	樋口 三枝子	看護部長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	リハ技師長 兼 作業療法室長
	山本 賢雅	理学療法室長
	毛利 暢子	感染対策室副室長代行
	嵯峨 望	庶務係主任
	立林 修	庶務課長（事務局）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月24日	感染症罹患状況、労災事故（昨年度件数まとめ）について 春の健康診断実施について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（医学研究室、物品管理室、ごみ収集庫、不潔リネン庫）他について報告および確認を行った。 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
2	令和元年5月29日	感染症罹患状況、労災事故について 春の健康診断（実施項目、基準値変更）について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（臨床検査室、生理検査室、放射線室）他について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 浴室、厨房等の環境測定（熱中症計モニタリング）について
3	令和元年6月29日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 春の健康診断の実施状況について ストレスチェック実施（外部委託）について 産業医の巡回（医局、薬剤室、D I 室）他について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について

4	令和元年 7 月 31 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 令和元年度メンタルヘルス研修会の日程、講師について決定 産業医の巡回について（栄養室、厨房、事務室、医療相談室） 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
5	令和元年 8 月 28 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（施設管理課、ボイラー室・機械室）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 浴室の熱中症対策（環境改善策）について結果報告
6	令和元年 9 月 25 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（5病棟、感染対策室）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について メンタルヘルス研修会日程変更について
7	令和元年 10 月 30 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）、研修会開催について 秋の職員健診、ストレスチェック実施について 産業医の巡回（1病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
8	令和元年 11 月 27 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 秋の職員健診、ストレスチェック実施状況について 産業医の巡回（4病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
9	令和元年 12 月 25 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 秋の職員健診、ストレスチェック実施結果について 産業医の巡回（3病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
10	令和 2 年 1 月 29 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について ストレスチェック実施結果について 産業医の巡回（2病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 中央材料室の室温モニタリングについて
11	令和 2 年 2 月 26 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（居宅・訪問リハ・地域連携室、1階リハ室、歯科） 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 職員健診（春・秋）の結果報告について

12	令和2年3月25日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（外来・内視鏡室）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 秋の職員健診の再受診結果について
----	-----------	---

4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・感染症罹患状況の把握と休養の指導をした。インフルエンザは累計20名で昨年度より減少した。
- ・前年度に引き続き、冬の路面凍結による転倒事故防止対策として、職員通用口付近に融雪および電気マットを敷き、注意喚起の回覧、掲示を実施した。
- ・高室温となる箇所については、昨年から継続して熱中症計によるモニタリングを行った。浴室については換気、扇風機設置等の対策により環境改善が図られた。その他の箇所についても引き続き環境改善の方策について検討することとした。
- ・労災事故件数 針刺し2件、熱中症1件、粘膜暴露2件 計5件
- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。
 春の受診者数 167名、指示人数 37名（22%）
 秋の受診者数 391名、指示人数 39名（10%）
- ・時間外労働（長時間労働者）については、月80時間超の該当者はなく、産業医による医師面談の実施なし。
- ・メンタルヘルスケアについて年1回の研修会の実施
 講演：「職場メンタルヘルスの基礎」／開催：令和元年10月15日～21日
 講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 講師 富田哲 先生、参加者315名
- ・ストレスチェックの実施の結果：受検率98%、受検者に占める高ストレス判定者の割合17%

部署代表者委員会

1. 活動目的

本委員会は、当財団が少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見や要望を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長	中央診療部代表	川村 隆行	(診療放射線技師長)
メンバー	医局代表	白戸 弘志	(内科医長)
	看護部代表	工藤 晃	(看護主任)
		成田 幸英	(看護主任)
	リハビリテーション部代表	山田 奈津子	(リハ主任/理学療法士)
		齋藤 曜子	(作業療法士)
	事務部代表	佐藤 暢子	(財務経理課長代行)

3. 委員会開催記録

回	日付	内 容
1	平成31年4月16日(火)	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
2	平成31年4月19日(金)	4月16日付での就業規則等の一部改正事項を4月17日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。
3	平成31年4月22日(月)	委員長が職員代表者として適任であるか各部署に確認するための書面を回覧した。
4	令和元年5月2日(火)	4月22日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを各部署へ文書にて報告した。
5	令和元年5月22日(水)	年号改正にあたり、定期昇給率・賞与支給率についての協定書を財団と再度締結し直した。
6	令和2年2月10日(月)	職員から意見箱に寄せられた意見・要望に関して、委員会で検討した内容をもとに書面を作成し財団に対して申出した。
7	令和2年3月5日(木)	2月10日付で財団に対して申出した意見・要望についての回答を財団より受けた。⇒委員会からの異議がないため、回答に関する文書を各部署に回覧した。
8	令和2年3月26日(木)	令和2年度の時間外労働及び休日労働に関する労使協定書を弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受けた。
9	令和2年3月26日(木)	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。

4. 活動要約

当院に設置している意見箱に職員からの意見や要望等が寄せられ、委員会で検討した結果、「年次有給休暇の取得方法」・「定期昇給率の引き上げ」・「年末年始休日勤務手当の増額」について財団との交渉を行った。すべての改定案に対して財団からは来年度より全職員のベースアップを実施し、要望通りに実現できるよう前向きに検討していきたいとの回答を頂いた。ほんのわずかではあるが、職員からの意見や要望等を業務改善に繋げることができたのではないかと感じている。

委員会としては引き続き、労働環境の整備(給与・手当や休暇等の充実)を微力ながらも計画・実行していきたいと考えている。

教育研修委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長 馬場 佳子 (中央診療部長 兼 内科部長)

副委員長 工藤 留美子 (副看護部長 兼 感染対策室副室長)

メンバー 鳥谷部 翔 (薬剤師長) 阿保 文子 (臨床検査技師長)

川村 隆行 (診療放射線技師長) 鳴海 悦子 (管理栄養士長)

金崎 真紀子 (看護師長) 工藤 正弘 (看護師長)

中村 学人 (理学療法士) 久森 名緒子 (リハ主任)

高橋 友紀子 (言語聴覚士) 宇佐美 夏希 (医療相談員)

齋藤 佑夏子 (医療相談員)

奈良 麻里 (医師事務作業補助係) 佐藤 暢子 (財務経理課課長代行)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 26 日	看護部・リハ部の教育研修計画について
2	令和元年 5 月 24 日	メディカルスタッフ勉強会の報告 リハケア勉強会の予定
3	令和元年 6 月 28 日	リハケア勉強会の中間報告 メディカルスタッフ勉強会の報告 資格取得および資格更新に関する内規についての確認
4	令和元年 7 月 26 日	リハケア勉強会の中間報告 メディカルスタッフ勉強会の報告
5	令和元年 8 月 23 日	リハケア勉強会の中間報告 戦略的人材育成費の変更について
6	令和元年 9 月 27 日	リハケア勉強会の中間報告
7	令和元年 10 月 25 日	職員表彰取り止めについて リハケア勉強会の中間報告
8	令和元年 11 月 22 日	リハケア勉強会実施報告 脳卒中学会のコメディカル枠について 来年度の戦略的人材育成費について
9	令和元年 12 月 27 日	来年度の学会研修旅費予算案について 来年度の戦略的人材育成費決定の報告 各部署の資格情報の取り纏め案

10	令和2年 1 月 24 日	来年度のメディカルスタッフ勉強会について 資格更新にかかる出張費についての検討
11	令和2年 2 月 28 日	メディカルスタッフ勉強会の報告と来年度の予定 新型コロナウイルスによる学会等の延期・中止について
12	令和2年 3 月 27 日	今年度の看護部・リハ部の勉強会の報告 委員会メンバー変更の報告 職員表彰取り止めの報告 次年度のワーキンググループについて

4. 活動要約

- ・ 出張旅費と学術助成の計画と執行状況の確認をした。
- ・ 黎明郷リハケア勉強会を企画し、無事に実施することができた。
- ・ 看護部・リハ部でそれぞれ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・ メディカルスタッフ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・ 学会予演会を企画・開催した。
- ・ 戦略的人材育成費の内容と学会研修旅費の予算を検討し、決定した。
- ・ 職員表彰の取り止めを決定した。
- ・ 各部署の資格取得状況について取り纏めを検討した。

施設運用委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長 清野 聡 (副院長)
 メンバー 樋口 三枝子 (看護部長)
 算用子 暁美 (リハビリテーション部技師長)
 川村 隆行 (診療放射線技師長)
 工藤 雅令 (事務部長)
 飯塚 聖貴 (施設管理係主任代行)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月3日	部屋の点検表について 病室の吊り棚の金具について 他
2	令和元年5月1日	部屋の点検表について審議検討した。 外来処置室、採血台について 他
3	令和元年6月12日	部屋の点検表について審議検討した。 感染対策室の書庫施錠について
4	令和元年7月3日	部屋の点検表について審議検討した。 3病棟介助バーについて 他
5	令和元年8月7日	部屋の点検表について審議検討した。 2病棟の結露について 他
6	令和元年9月4日	部屋の点検表について審議検討した。 4階特殊浴室の脱衣室について 他
7	令和元年10月2日	今年度2回目の点検表について アトリウム壁面の汚れについて 他
7	令和元年10月2日	今年度2回目の点検表について アトリウム壁面の汚れについて 他
8	令和元年11月6日	部屋の点検表について審議検討した。 臨床検査室の空調、中央材料室の空調について 他
9	令和元年12月4日	部屋の点検表について審議検討した。 医局内に仮眠スペースを検討 他
10	令和2年1月8日	部屋の点検表について審議検討した。 歯科診察室の空調について 他
11	令和2年2月5日	部屋の点検表について審議検討した。 薬剤室の棚について 他

12	令和 2 年 3 月 4 日	部屋の点検表について審議検討した。 2 病棟の結露問題、看護当直室の空調について 他
----	----------------	---

4. 活動要約

- ・各部屋の責任者を選任し年 2 回の点検および改善・対策をした。
- ・5 病棟病室の吊り棚にハンガーポールを設置した。
- ・外来処置室に採血台を購入した。
- ・栄養室内に冷蔵庫を購入した。
- ・4 階特殊浴室、脱衣室の敷きマットを交換した。
- ・超音波検査室②に保管庫を設置した。
- ・2 病棟にカーブミラーを設置した。
- ・医局内に仮眠スペースを確保した。

広報委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

委員長 目時 典文（内科部長）
 メンバー 樋口 三枝子（看護部長）
 算用子 暁美（リハビリテーション部技師長）
 鳥谷部 翔（薬剤師長）
 立林 修（庶務課長）

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 15 日	ホームページについて、ワーキンググループの活動報告 年報についての進捗状況の報告 脳卒中市民公開講座の開催（5/26 ヒロロ 4F）について
2	令和元年 5 月 20 日	ホームページ：年間予定、コンテンツ更新の方針について報告
3	令和元年 6 月 24 日	ホームページの部署紹介ページについて、看護部、リハ部の内容、展開方法の見直しを検討
4	令和元年 7 月 22 日	ホームページについて、リクルートの職種紹介ページの更新、看護部の部署紹介ページを PDF ファイルで展開、閲覧できるように変更した
5	令和元年 8 月 26 日	高次脳機能障害者リハ講習会開催についてホームページに掲載 更新履歴を時系列に一覧化し、委員会にて随時報告
6	令和元年 9 月 30 日	ホームページ更新管理記録の掲載内容の検討、更新履歴について報告
7	令和元年 10 月 21 日	ホームページ更新管理記録の記載内容の見直し ワーキンググループの活動と今後の予定について
7	令和元年 11 月 18 日	ホームページの臨床研究オプアウト掲載について フォトギャラリーの更新（一時掲載休止）について
8	令和元年 12 月 18 日	ホームページ：ワーキンググループの活動計画について ホームページのスマートフォン対応について

※令和2年1～3月は開催なし

4. 活動要約

- ・ ホームページの充実、年報の作成、脳卒中市民公開講座の継続開催を軸に審議検討した。
- ・ ホームページは、ワーキンググループの活動方針の検討、部署別コンテンツの充実を図った。
- ・ 年報第6号（H30年度）が完成し、ホームページ上で公開。
- ・ 脳卒中市民公開講座2019の開催。今年度は脳卒中週間にあたる5月開催とした。
平成31年5月26日（日） 弘前市民文化交流館大ホール（ヒロロ4F） 参加者110名

患者サービス委員会

1. 活動目的

本委員会は、各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

（内容）①患者等への対応サービスの向上に関する事。②患者等の院内活動にかかるサービス向上に関する事。③患者等からの苦情・意見の収集および対応に関する事。④ボランティアの受け入れおよび活動内容に関する事。⑤その他の医療サービスに関する事。

2. 構成員

委員長	萩井 譲士（副院長）	
副委員長	千葉 順子（看護師長）	住吉 佳奈子（リハ士長／作業療法士）
委員	山田 まり子（医療安全推進室副室長）	関 晃治郎（診療放射線技師）
	鳴海 悦子（栄養士長）	小野 るり子（看護主任）
	工藤 晃（看護主任）	吉田 美奈（看護主任）
	佐藤 奈奈（看護主任）	千葉 美由記（看護師）
	工藤 くみ（看護主任）	安藤 瞳（看護師）
	中嶋 秋花（理学療法士）	福山 美佳（リハ主任／言語聴覚士）
	長尾 さくら（医療相談員）	葛西 志保（医師事務作業補助係）
	澤田 栞奈（財務経理係）	

3. 活動記録

回	開催日	内容
1	平成 31 年 4 月 18 日	3 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 平成 31 年度規約・委員・活動予定の確認
2	令和元年 5 月 16 日	4 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 3 病棟公衆電話利用に関する苦情と対策について 外来女子トイレ荷物置きを設置希望について
3	令和元年 6 月 20 日	5 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 活動報告（春の清掃活動、接遇研修会、七夕）
4	令和元年 7 月 18 日	6 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 5 病棟病室衣類棚ハンガーラックの取付について 外来女子トイレ荷物置きを設置について
5	令和元年 8 月 22 日	7 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 活動予定の確認（秋の清掃活動） 5 病棟病室衣類棚ハンガーラックの取付について 患者娯楽用品等の購入検討について

6	令和元年 9 月 19 日	8 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 活動報告（秋の清掃活動） 患者娯楽用品等の購入検討について 病棟内トイレ便座用消毒液の設置状況について
7	令和元年 10 月 17 日	9 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 wi-fi 設置希望について 患者娯楽用品等の購入検討について 病棟内トイレ便座用消毒液の設置状況調査・報告 外来女子トイレ荷物置き場の設置について 活動予定の確認（クリスマス）
8	令和元年 11 月 21 日	10 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 wi-fi 設置について。活動報告（クリスマス） 患者用トイレのゴミ箱入替について
9	令和元年 12 月 19 日	11 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 wi-fi 設置について
10	令和 2 年 1 月 16 日	12 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 患者用トイレのゴミ箱入替について 入院時の支払・請求方法確認用紙の様式見直し
11	令和 2 年 2 月 20 日	1 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 令和元年度の評価、令和 2 年度一部委員の確認 患者用トイレのゴミ箱入替について
12	令和 2 年 3 月 19 日	2 月分退院時患者アンケート調査結果の報告 令和 2 年度委員の決定 患者用トイレのゴミ箱入替について

4. 活動要約

【主な行事】

開催日	内容
令和元年 6 月 11 日（17：30～18：00）	接遇研修（e-ラーニングビデオ研修） テーマ「医療者にとって、本当に必要な接遇とは」 参加者：36 名
令和元年 6 月中旬～ 7 月 8 日	七夕飾りの設置・片づけ
令和元年 6 月 7 日（17：30～） 令和元年 9 月 18 日（17：30～）	春の清掃活動（ゴミ拾い） 参加者：41 名 秋の清掃活動（ゴミ拾い） 参加者：21 名
令和元年 11 月中旬～12 月 26 日	クリスマスツリー飾りの設置・片づけ

その他

- ・5 病棟病室の衣類棚ハンガーラックの取付工事（令和元年 7 月、5 病棟内全 60 か所）
- ・病棟患者用トイレのペーパータオル用ゴミ箱の購入・入替（令和 2 年 3 月、病棟内全 55 か所）

【退院時患者アンケート（患者等からのご意見）】 ※別添参照

アンケート回答回収率 年間平均：27.1%

ご意見・ご不満の内容

- ・ 食事について（味付け、メニュー、量 等）
- ・ 医師・看護師について（接遇・言葉遣い、説明不足、対応の遅さ 等）
- ・ 環境・設備について（室温、トイレ環境、wi-fi の設置 等）
- ・ その他：ナースコールについて、面会時間について、リハビリ・入浴の時間について、
請求書について、病室用冷蔵庫の利用料について、
病室用衣類棚の設置位置について等

【総括】

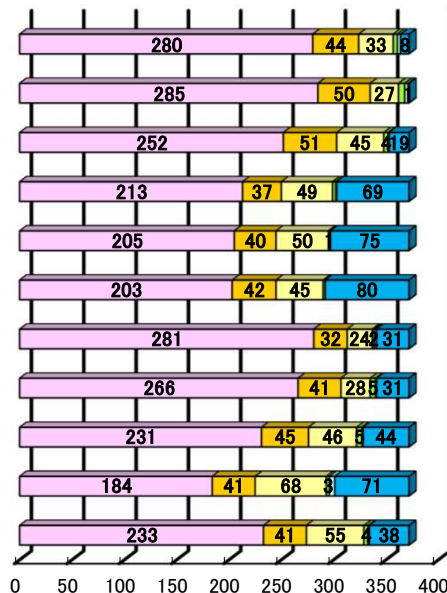
- ・ 計画した行事は予定通り実施できた。
- ・ 患者等からの接遇に関するご指摘が多い中で、接遇研修会への参加がとても少なかった。職員の接遇力向上と、連携・協調を深めるため、積極的な参加を促していく。
- ・ ご意見・ご不満に関して、真摯に受け止め、原因・状況を確認し再発防止に努め、サービス向上につなげていく。
- ・ 環境・設備等に関して、施設管理部門と連携し解決を図り、安心安全な環境づくりに努めた。

退院時患者様へのアンケート 調査結果 令和元年度 平成31年4月1日～令和2年3月31日

(・回答者数: 372名 ・退院患者数: 1373名 ・回収率: 27.1%)

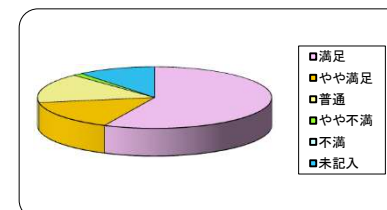
Q1. スタッフの対応サービスはどうか？

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未記入	計
医師	280 75.3%	44 11.8%	33 8.9%	4 1.1%	3 0.8%	8 2.2%	372 100.0%
看護師	285 76.6%	50 13.4%	27 7.3%	6 1.6%	3 0.8%	1 0.3%	372 100.0%
受付 スタッフ	252 67.7%	51 13.7%	45 12.1%	4 1.1%	1 0.3%	19 5.1%	372 100.0%
薬剤師	213 57.3%	37 9.9%	49 13.2%	3 0.8%	1 0.3%	69 18.5%	372 100.0%
放射線 技師	205 55.1%	40 10.8%	50 13.4%	1 0.3%	1 0.3%	75 20.2%	372 100.0%
検査技師	203 54.6%	42 11.3%	45 12.1%	2 2.5%	0 0.0%	80 21.5%	372 102.0%
リハ スタッフ	281 75.5%	32 8.6%	24 6.5%	2 0.5%	2 0.5%	31 8.3%	372 100.0%
医療相談員	266 71.5%	41 11.0%	28 7.5%	5 1.3%	1 0.3%	31 8.3%	372 100.0%
栄養士	231 62.1%	45 12.1%	46 12.4%	5 1.3%	1 0.3%	44 11.8%	372 100.0%
売店 スタッフ	184 49.5%	41 11.0%	68 18.3%	3 0.8%	5 1.3%	71 19.1%	372 100.0%
清掃 スタッフ	233 62.6%	41 11.0%	55 14.8%	4 1.1%	1 0.3%	38 10.2%	372 100.0%

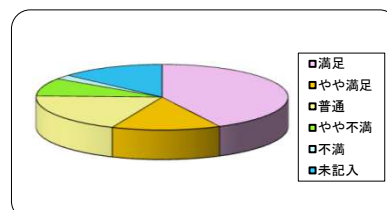


Q3. 食事の満足度について(治療食)

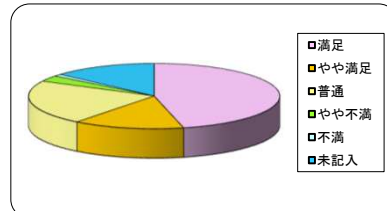
温度			
1	満足	212	57.0%
2	やや満足	57	15.3%
3	普通	58	15.6%
4	やや不満	5	1.3%
5	不満	0	0.0%
6	未記入	40	10.8%
	計	372	100%



味付け			
1	満足	158	42.5%
2	やや満足	52	14.0%
3	普通	71	19.1%
4	やや不満	33	8.9%
5	不満	8	2.2%
6	未記入	50	13.4%
	計	372	100%

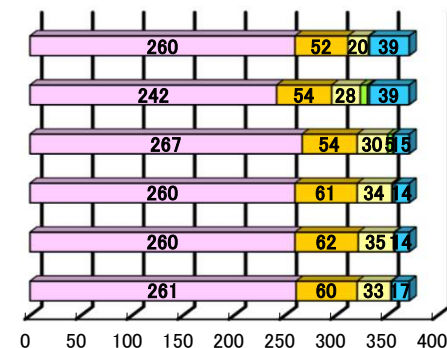


量			
1	満足	172	46.2%
2	やや満足	53	14.2%
3	普通	82	22.0%
4	やや不満	11	3.0%
5	不満	4	1.1%
6	未記入	50	13.4%
	計	372	100%



Q2. 当院の設備について

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未記入	計
リハビリ施設	260 69.9%	52 14.0%	20 5.4%	1 0.3%	0 0.0%	39 10.5%	372 100.0%
入浴設備	242 65.1%	54 14.5%	28 7.5%	7 1.9%	2 0.5%	39 10.5%	372 100.0%
トイレの清潔	267 71.8%	54 14.5%	30 8.1%	5 1.3%	1 0.3%	15 4.0%	372 100.0%
冷暖房設備	260 69.9%	61 16.4%	34 9.1%	1 0.3%	2 0.5%	14 3.8%	372 100.0%
室内環境 (広さ、照明)	260 69.9%	62 16.7%	35 9.4%	1 0.3%	0 0.0%	14 3.8%	372 100.0%
院内の清潔	261 70.2%	60 16.1%	33 8.9%	1 0.3%	0 0.0%	17 4.6%	372 100.0%



レクリエーション委員会

1. 活動目的

本会は、一般財団法人黎明郷 職員間の交流を通じ、労働力の確保・定着・勤労意欲・能率の向上などの効果をもたらすことを目的とし、以下の活動をする。

- ・財団新入職員歓迎会に関する事。（開催日：原則 4 月第 3 金曜日）
- ・財団忘年会に関する事。（開催日：原則 12 月第 2 金曜日）
- ・ボウリング大会に関する事。
- ・その他、レクリエーション活動に関する事。

2. 構成員 ※令和 2 年 3 月末現在

委員長	医 局	清野 聡	（副院長）
メンバー	栄養室	船水 亜巳	（管理栄養士）
	診療放射線室	川村 隆行	（診療放射線技師長）
	外 来	工藤 江里香	（看護師）
	1 病棟	佐々木 有沙	（看護師）
	1 病棟	今井 真子	（看護師）
	2 病棟	小田桐 史典	（看護師）
	3 病棟	古川 優希	（理学療法士）
	4 病棟	西澤 清貴	（作業療法士）
	5 病棟	三上 知彦	（看護師）
	事務部	桑田 武人	（庶務係長）
	事務部	前田 一成	（財務経理係）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 8 日	新入職員歓迎観桜会（準備）、納涼会（準備）
2	令和元年 5 月 13 日	新入職員歓迎観桜会（終了報告）、納涼会（準備）
3	令和元年 6 月 10 日	納涼会（準備）、ボウリング大会（準備）
4	令和元年 7 月 8 日	納涼会（準備）、ボウリング大会（準備）、H30 年度委員会年報（報告）
5	令和元年 8 月 19 日	納涼会（終了報告）、ボウリング大会（準備）
6	令和元年 9 月 9 日	ボウリング大会（準備）、忘年会（準備）
7	令和元年 10 月 21 日	ボウリング大会（終了報告）、忘年会（準備）
8	令和元年 11 月 11 日	忘年会（準備）
9	令和元年 12 月 9 日	忘年会（準備）
10	令和 2 年 1 月 20 日	忘年会（終了報告）、来年度の委員編成
11	令和 2 年 2 月 10 日	忘年会（報告）、新入職員歓迎観桜会（準備）、来年度の委員体制
12	令和 2 年 3 月 9 日	来年度の委員交代、新入職員歓迎観桜会（準備）
13	令和 2 年 3 月 19 日	新入職員歓迎観桜会（開催の保留・延期）

4. 活動要約

内 容	開催日	場 所	参加人数
新入職員歓迎観桜会	平成 31 年 4 月 19 日	ホテルニューキャッスル	276 名
納涼会	令和元年 7 月 12 日	ごちそうプラザ（土手町）	96 名
ボウリング大会	令和元年 9 月 13 日	アサヒボウル（土手町）	68 名
ボウリング大会懇親会	令和元年 9 月 13 日	わいん食堂（百石町）	62 名
忘年会	令和元年 12 月 13 日	アートホテル弘前シティ	266 名

NST(Nutrition Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

内沢 隆充 (副院長)
 佐々木 都子 (内科部長)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長) 橋場恵美子 (臨床検査技師) 高阪 理恵 (専任看護師)
 今井 真子 (専任看護師) 横濱 岳 (看護主任) 秋元 桃子 (看護師)
 塩谷 美鈴 (看護師) 宮野 麻莉 (看護師) 小野 真矢子 (看護師)
 荒谷 真貴 (専任看護師) 相馬 千尋 (リハ主任) 下山 祥穂 (作業療法士)
 成田 理沙 (言語聴覚士) 成田 笑美 (医療相談員) 角田 七海 (医事係)
 鳴海 悦子 (管理栄養士長) 藤田 佳子 (主任管理栄養士) 船水 亜巳 (管理栄養士)
 大川 みこと (管理栄養士)

3. 活動記録

1病棟	毎週月曜日	13:00～	8月から毎週火曜日	16:00～
2病棟	毎週金曜日	13:00～	8月から毎週木曜日	16:00～
3病棟	月1回第2木曜日	16:00～	8月から月1回第2金曜日	16:00～
4病棟	月1回第2木曜日	16:00～	8月から月1回第2金曜日	16:00～
5病棟	月1回第4木曜日	16:00～	8月から月1回第4木曜日	16:00～

▼NST評価件数

	1病棟	2病棟	3病棟	4病棟	5病棟
4月	21	21	10	6	6
5月	13	16	16	7	6
6月	14	12	13	4	8
7月	22	6	16	6	8
8月	15	14	10	5	8
9月	8	12	5	8	6
10月	12	21	9	6	7
11月	15	8	9	5	0
12月	10	18	0	0	0
1月	—	—	—	—	—
2月	—	—	—	—	—
3月	—	—	—	—	—
合計	130件	128件	88件	47件	49件

4. 活動要約

- ・NSTによる加算算定は実施していないが、食事不振、栄養不良者、経鼻経管栄養対象者に関しての評価は継続して実施した。
- ・一般病棟でのNST対象者については、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後に食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。

- ・NST勉強会

「消化態栄養剤」11月27日

ICT(Infection Control Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

リーダー	清野 聡 (副院長)	サブリーダー	萩井 譲士 (副院長)
メンバー	工藤 留美子 (副看護部長)	毛利 暢子 (感染対策室副室長代行)	三上 千鶴 (看護師)
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)	花田 和大 (薬剤師)
リンクスタッフ	田中 裕美 (看護師)	工藤 晃 (看護主任)	船水 正美 (看護師)
	小山内 棕 (看護師)	成田 睦 (看護師)	西澤 怜奈 (看護師)
	小田桐 敦 (看護師)	宮野 麻莉 (看護師)	鈴木 麻里 (看護師)
	寺地 恵子 (看護師)	石岡 史穂 (看護師)	赤石 富士子 (看護師)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)	斎藤 信一 (作業療法室副室長)	三浦 康彦 (理学療法室副室長)
	盛 亨子 (言語聴覚室長)	船水 亜巳 (管理栄養士)	伊藤 佳織 (医師事務作業補助係長)
令和2年1月1日～			
	三上 小夜香 (看護主任)	小野 るり子 (看護主任)	立原 秀実 (看護主任代行)
	横濱 岳 (看護主任)	村上 朋子 (看護主任)	工藤 夏美 (看護主任代行)
	吉田 美奈 (看護主任)	齋藤 輝之 (看護主任)	大湯 由香 (看護主任代行)
	佐藤 奈奈 (看護主任)	成田 幸英 (看護主任)	桑村 美佳 (看護主任代行)
	工藤 くみ (看護主任)	佐藤 志乃 (看護主任)	伊藤 純子 (看護主任代行)

3. ICT会議開催記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月2日	平成30年度ICT活動の振り返り 平成31年度ICT活動計画 平成31年度ICTリンクスタッフ活動について 検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
2	平成31年4月9日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
3	平成31年4月16日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
4	平成31年4月23日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

5	平成 31 年 4 月 30 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
6	令和元年 5 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 排泄自立支援に対する介入について検討・報告
7	令和元年 5 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
8	令和元年 5 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
9	令和元年 5 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
10	令和元年 6 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
11	令和元年 6 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
12	令和元年 6 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
13	令和元年 6 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
14	令和元年 7 月 2 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
15	令和元年 7 月 9 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
16	令和元年 7 月 16 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
17	令和元年 7 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

18	令和元年 7 月 30 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
19	令和元年 8 月 6 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
20	令和元年 8 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 疥癬について研修会開催
21	令和元年 8 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
22	令和元年 8 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
23	令和元年 9 月 3 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
24	令和元年 9 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
25	令和元年 9 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
26	令和元年 9 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
27	令和元年 10 月 1 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
28	令和元年 10 月 8 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
29	令和元年 10 月 15 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
30	令和元年 10 月 29 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

31	令和元年 11 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
32	令和元年 11 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
33	令和元年 11 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
34	令和元年 12 月 3 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
35	令和元年 12 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染表示統一について検討
36	令和元年 12 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
37	令和元年 12 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 ICS 会議のあり方と運営について検討 ICT リンクスタッフの変更と活動について検討
38	令和 2 年 1 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
39	令和 2 年 1 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
40	令和 2 年 1 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
41	令和 2 年 1 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
42	令和 2 年 2 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 令和 2 年度インフルエンザ・HB ワクチンプログラムについて

43	令和2年2月18日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
44	令和2年2月25日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
45	令和2年3月3日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 令和2年度HBワクチンプログラムについて
46	令和2年3月10日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
47	令和2年3月17日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
48	令和2年3月24日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
49	令和2年3月31日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
臨時1	令和元年7月18日	CDIアウトブレイクについて
臨時2	令和元年8月1日	疥癬アウトブレイクについて

4. 活動要約

- ・院内巡視（ICTラウンド）を実施・評価し感染対策委員会にて提言
1年を通して、評価項目の改善点なども多く抽出された。
ICTリンクスタッフによる現場指導目的、看護部のリンクスタッフが変更となった。
- ・アウトブレイクの早期察知と対応
CDIと疥癬のアウトブレイク早期発見により、早期終息ができた。
- ・手指衛生について
手指衛生の実施状況を確認し、継続した観察と感染対策指導を実施していく。
手指衛生の遵守に伴い、手指のケアを行える資材の提供なども検討していく。
- ・医療材料や資材の提供
 - ①安全機構付き医療器への変更
患者さまと職員両者にとって安全である医療器材への切り替えを実施。
CVポート留置患者の増加に伴い、より安全で衛生的な医療提供が行えるように支援する。
 - ②个人防护具の変更
粘膜曝露事例の増加から、眼の保護目的の个人防护具（ゴーグル）を変更し提供開始。
衛生的に使いやすい資材への変更をおこなった。

- ・ワクチンプログラムの再構築

職員自身の感染対策を実施すると共に、患者様を感染から守る目的からインフルエンザワクチンやB型肝炎に関するワクチンプログラムの見直しを実施。業務改善も含め実施している。継続したプログラム実施に対して支援を行う。

- ・排泄自立支援

尿路感染症患者の増加や尿道留置カテーテル使用比の低下を目標とし、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と共に、排泄自立支援活動を開始した。医師やリハビリ部門職員もチームの一員として活動を継続し、カテーテル使用比の低下が見られた。尿路感染症に関する効果は継続して介入と観察を行っていく。

- ・感染対策簡易マニュアルの配布と院内統一表示開始

感染対策を適切に実施し、確認できる方法として簡易マニュアル作成と配布を実施。

職員（委託職員含む）が共通した対応が行える方法とし、感染表示を統一し開始した。

DST(Diabetic Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける糖尿病患者の合併症の発症・進行が抑制されるよう集学的な治療を行い、症状や生活の質が改善されるように指導や支援を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

指導医	医局	佐々木 都子 (内科部長)
GM	薬剤室	鳥谷部 翔 (薬剤師長)
リーダー	看護部	佐藤 志乃 (看護主任)
メンバー	薬剤室	石田 瑞穂 (薬剤師)
	看護部	三上 小夜香 (看護主任)
		工藤 くみ (看護主任)
		伊藤 純子 (主任看護師代行)
		澤田 由香 (主任看護師代行)
		今井 真子 (看護師)
		工藤 梓 (看護師)
		西谷 鮎子 (看護師)
		板垣 充子 (看護師)
		田川 早苗 (看護師)
		澁谷 佳那 (看護師)
		工藤 汐里 (看護師)
		小山内 瞳 (歯科衛生士)
	栄養室	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
		船水 亜巳 (管理栄養士)
		大川 みこと (管理栄養士)
	医学研究室	外崎 春香 (医療クラーク)
事務局	事務部	佐々木 哲裕 (医事係長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成31年4月8日	糖尿病教室の活動について
2	令和元年5月13日	フットケアについて 糖尿病患者を対象としたアンケートについて
3	令和元年6月10日	日本糖尿病学会学術集会 参加報告 メディカルスタッフ勉強会について
4	令和元年7月8日	メディカルスタッフ勉強会について 日本糖尿病学会 東北地方会 参加について 学会・研修会参加について

5	令和元年 8 月 19 日	日本糖尿病学会 東北地方会 参加について メディカルスタッフ勉強会について
6	令和元年 9 月 9 日	日本糖尿病学会 東北地方会 参加について 糖尿病教室の活動について メディカルスタッフ勉強会について
7	令和元年 10 月 21 日	メディカルスタッフ勉強会について 他施設共同研究について 糖尿病教室の活動について 日本糖尿病学会 東北地方会 予演会
8	令和元年 11 月 11 日	メディカルスタッフ勉強会について 日本糖尿病学会 東北地方会 参加報告 インスリン製剤一覧表について（更新報告）
9	令和元年 12 月 9 日	メディカルスタッフ勉強会 開催報告 ビクトーザペン変更に伴う注意喚起
10	令和 2 年 1 月 20 日	他施設共同研究について メトホルミン塩酸塩における発がん物質の検出に対する対応 について 糖尿病教室の活動について
11	令和 2 年 2 月 10 日	他施設共同研究について S A F E - D I 薬効シリーズの配布 糖尿病教室の活動について
12	令和 2 年 3 月 9 日	他施設共同研究について 来年度の研修内容について 糖尿病教室の活動について 糖尿病に関する意識調査について

4. 活動要約

- ・業務効率の観点から、令和 2 年度より糖尿病教室を毎週木曜日 14 時 30 分からの開催へ変更を決議。
- ・糖尿病に関する啓蒙、糖尿病教室への参加を円滑にするため、対象患者へ案内カードを配布。
- ・院内スタッフ勉強会の実施。

脳ドックワーキンググループ

1. 活動目的

「脳ドック」を希望する対象者のニーズに応える。もって、根治の難しい神経疾患の発生を予防する。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

リーダー	内沢 隆充（副院長 兼 脳神経外科部長）	
メンバー	萩井 譲士（副院長）	目時 典文（内科部長）
	千葉 順子（看護師長）	村上 朋子（看護主任）
	川村 隆行（診療放射線技師長）	阿保 文子（臨床検査技師長）
	齋藤 理恵（医事課長）	佐々木 哲裕（医事係長）
	今 基（企画運営課長）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 31 年 4 月 26 日	青森県市町村職員共済組合との「脳検診」委託契約について 弘前市国保脳ドック委託契約について 公立学校共済組合との「脳検診」実施進捗状況 田舎館村国保脳ドック委託契約検討 平川市国保脳ドック委託契約検討
2	令和 2 年 3 月 26 日 (紙上会議)	西目屋村国保脳ドック委託契約締結(事後報告) 平川市国保脳ドック委託契約検討結果報告 つがる市国保脳ドック委託契約検討結果報告 来年度の構成委員について

4. 活動要約

- ・脳卒中の早期発見と予防に貢献すべく、2019 年度も引き続き事業を継続
以下、委託契約更新した
- ・公立学校共済組合「脳検診」の委託契約を更新（定員 80 名程度）
- ・「弘前市国保脳ドック」の委託契約を更新
- ・日本予防医学協会「脳ドック」の委託契約を更新（自動更新）
- ・青森県市町村職員共済組合との「脳検診」について委託契約締結(2019 年 4 月 1 日から実施)
- ・「西目屋村国保脳ドック」について委託契約締結(2019 年 10 月 1 日から実施)
- ・「平川市国保脳ドック」の委託契約締結予定（令和 2 年 9 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）
- ・「つがる市国保脳ドック」との契約交渉を申し込んだが、先方の現契約医療機関で十分対応可能との判断により、契約には至らなかった。

・2019(平成31年4月～令和2年3月31日)年度の実績について

実施主体	実施件数
一般	11 件
公立学校共済組合	89 件
弘前市国保	21 件
西目屋村国保	3 件
市町村職員共済組合	19 件
総件数	143 件

未実施件数：21 件

(理由)

- ・体内金属有でのお断り (9 人)
- ・本人都合でのキャンセル (12 人)

心臓リハビリテーション ワーキンググループ

1. 活動目的

本ワーキンググループは、心大血管疾患リハビリテーションを適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

高橋 広希 (内科部長 ・ 心臓リハビリテーション指導士)
 小野 公久 (作業療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 小山 裕美 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 佐藤 勇季 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長)
 横濱 岳 (看護主任)
 渡部 千尋 (看護師)
 熊澤 ゆかり (主任臨床検査技師)
 鳴海 悦子 (管理栄養士長)
 今 基 (企画運営課長)

3. ワーキング開催記録

【心臓リハビリテーションワーキング】

毎月第2金曜日 15:00～16:00

回	開催日	内 容
1	平成31年4月12日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討
2	令和元年5月10日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討
3	令和元年6月14日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討
4	令和元年7月5日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 マニュアル式除細動器(ペースング機能付)の更新検討
5	令和元年8月9日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6分間歩行試験について

6	令和元年 9 月 13 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について 心臓リハビリテーション備品について エコーによる大腿直筋厚計測について 呼吸訓練用具について
7	令和元年 10 月 11 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について 呼吸訓練用具について 心臓リハビリテーションスタッフ不在時の対応
8	令和元年 11 月 8 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について 呼吸訓練用具について 必要備品購入について 心臓リハビリテーションスタッフの増員について
9	令和元年 12 月 13 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について マニュアル式除細動器(ペースティング機能付)の必要性、更新検討
10	令和 2 年 1 月 10 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について マニュアル式除細動器(ペースティング機能付)の必要性、更新検討
11	令和 2 年 2 月 14 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について 訓練機器の定期検査について 心臓リハビリテーションスタッフの増員について
12	令和 2 年 3 月 13 日	CPX 練習予定確認 心大血管リハビリ開設後の患者教育に関して 急変時対応シミュレーションの検討 6 分間歩行試験について マニュアル式除細動器(ペースティング機能付)の必要性、更新検討

4. 活動要約

- 心臓リハビリテーションを円滑に行うために、機器の選択やプロトコルの決定を多部門で行っている。
- 令和2年1月まで弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 助教 西崎史恵 医師（心臓リハビリテーション指導士）に非常勤として来ていただき、患者訓練指導に立ち会って指導頂いた。

口腔ケアワーキンググループ

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員 ※令和2年3月末現在

リーダー 盛 亨子（言語聴覚室長）
 サブリーダー 小山内 瞳（歯科衛生士）
 メンバー 小堀 文美子（歯科衛生士） 佐藤 奈月（作業療法士）
 小出 宣子（看護師） 前田 遥佳（看護師） 渡部 千尋（看護師）
 須藤 賢登（看護師） 石岡 明美（看護師） 西岡 華帆（看護師）
 藤田 真紀子（看護師） 成田 雅子（看護師） 寺地 恵子（看護師）
 佐藤 輝美（看護師）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	令和31年4月3日	院内で使用する口腔保湿剤変更の検討 本年度活動計画の確認
2	令和元年5月1日	院内で使用する口腔保湿剤変更の検討 口腔ケア手技定着に向けての計画 7月のメディカル勉強会の内容検討
3	令和元年6月5日	口腔保湿剤使用報告 口腔ケア手技チェック運用計画 7月のメディカル勉強会の内容検討
4	令和元年7月3日	口腔保湿剤使用報告 口腔ケア手技チェック運用の具体案決定 7月のメディカル勉強会の内容確認
5	令和元年8月7日	口腔保湿剤変更報告 口腔ケア手技チェック運用計画の詳細決定
6	令和元年9月4日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認 LTセット歯ブラシの用途・目的確認
7	令和元年10月2日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認
8	令和元年11月7日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認
9	令和元年12月4日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認 アセスメント一部介助の患者の状況報告
10	令和2年1月8日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認
11	令和2年2月5日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認 口腔ケアアセスメントシートの運用状況報告 各病棟での口腔ケアの現状報告と解決策の提案

12	令和2年3月6日	口腔ケア手技チェック進捗状況の確認 口腔ケアアセスメントシートの運用状況報告 次年度の活動検討
----	----------	---

4. 活動要約

- ・ 院内使用の口腔保湿剤について検討し、比較的安価な口腔保湿剤に変更することで、購入側の負担軽減を図った。
- ・ これまで歯科衛生士が中心であった口腔ケアについて、看護師主体で行うための手技確認をスタートさせた。
- ・ 看護職員に口腔ケアについてより関心を持ってもらうため、メディカル勉強会を行った。
- ・ 活動を通し、今後の課題提起ができた。

令和2年3月31日発行

【編集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長 目 時 典 文（内科部長）

委 員 樋 口 三枝子（看護部長）

算用子 暁 美（リハビリテーション部技師長）

鳥谷部 翔（薬剤師長）

立 林 修（庶務課長）